

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

高岡市長 角田 悠紀

市町村名 (市町村コード)	高岡市 (162027)
地域名 (地域内農業集落名)	中田地区 (中田,反保島,上麻生,下代,麻生,常国,滝,今泉,東保新,今泉新,島新,下山田,山下,小泉新,滝新,若杉)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和5年12月15日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

・現在、中心経営体に農地の集積を行っており、集積率は約9割となっており、良好である。
・企業の定年延長などにより新たな人材が入ってこないことなどから営農組合の高齢化が進んでおり、新規就農者をはじめ多様な担い手の確保が重要な課題である。また、組合間の統合など、今後の営農組合のあり方を考える必要がある。
・畔等の草刈りが大きな負担となっており、負担軽減対策が必要である。
・狭隘、不整形な土地があり、土地補正の必要がある。

(2) 地域における農業の将来の在り方

米や麦・大豆等の土地利用型作物の作付けの継続を図る一方、収益性の高い園芸作物の積極的な作付けを行う。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	460.3 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	460.3 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

・農業振興地域を基本の区域とし、その中でも農業生産の中心となるエリアである農用地で担い手の意向や周辺農地の状況等を勘案し、農地の活用を促進する。
・保全・管理等のエリアについては、地元で慎重な協議を積み重ね、必要な場合は適切に設定する。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
中田地区の受託者協議会等を通じて、中心経営体の今後の経営(規模拡大・縮小)意向に沿った調整を進め、集積・集約化を促進する。
(2)農地中間管理機構の活用方針
・将来の経営農地の集約化を目指し、可能なものから、農地を機構に貸し付けていく。 ・機構の貸し付けになじまないものについては、引き続き相対で農地貸借を行っていく。
(3)基盤整備事業への取組方針
・農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、農地の大区画化・汎用化等の基盤整備に取り組む。 ・狭隘かつ不整形な農地については、耕作しやすいよう、地権者の同意を得つつ、畔倒し等の補正に努める。 ・基盤整備への取り組みにあたっては、補助事業を積極的に活用する。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
・若い世代に向けた、交流会の開催を検討する。 ・若い世代が興味を持てる作業方法の構築を目指す。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☒ ⑧農業用施設	☒ ⑨耕畜連携	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ・畔の草対策については、草刈りや防草シートの敷設、多面的支払い交付金の活用などにより、地域ぐるみで取り組む。
- ・敷払いや放任果樹等の伐採など、クマやイノシシなどの鳥獣との住み分けを図るため生息環境管理に取り組む。
- ・負担軽減及び作業の効率化・効果化のため、ドローンによる農薬散布の導入等、スマート農業機器の導入を進める。導入にあたっては、補助金等を積極的に活用する。
- ・農機を効率的に利用するため、農機リース等のサービス活用も検討していく。